

3)参加者アンケート集計結果

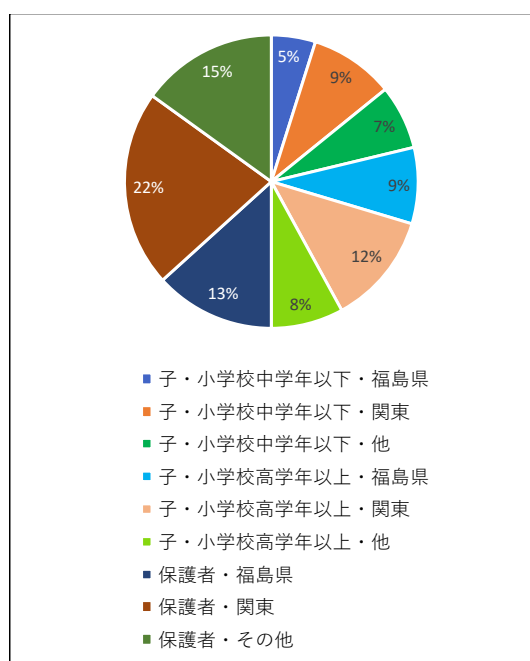
アンケートは1家庭につき保護者1名、子ども1名がWEBから回答する形式で実施した。家庭内で子どもの参加が複数ある場合は、対象年齢である小学校高学年に近い年齢の子どもに回答してもらった。集計に当たっては、参加者の興味や関心を調べることで、シンポジウムのあり方や、イベント告知等の効果的な広報を検討することを目的とした。

なおアンケート項目は、ライブ配信の内容と関連の深い事前・事後配信動画についても設問した。

○回答者数及び属性

| 地域 | 区分 | 回答数 | 地域 | 区分 | 回答数 |
|-----|-------------------------|-----|--|-------------------------|-----|
| 福島県 | 未就学 | 3 | 関東 (東京都、 神奈川県、 埼玉県、 千葉県、 茨城県、 栃木県) | 未就学 | 4 |
| | 小学校低学年 | 1 | | 小学校低学年 | 4 |
| | 小学校中学年 | 6 | | 小学校中学年 | 13 |
| | 小学校高学年 | 12 | | 小学校高学年 | 16 |
| | 中学生以上 | 6 | | 中学生以上 | 12 |
| | 会社員・団体職員 (森林・林業関係) | 3 | | 会社員・団体職員 (森林・林業関係) | 8 |
| | 会社員・団体職員 (森林・林業関係以外) | 9 | | 会社員・団体職員 (森林・林業関係以外) | 13 |
| | その他(自営業、学生、 無職、不明等) | 11 | | その他(自営業、学生、 無職、不明等) | 25 |
| | 公務員 | 5 | | 公務員 | 3 |

| 地域 | 区分 | 回答数 |
|-----|-------------------------|-----|
| その他 | 未就学 | 0 |
| | 小学校低学年 | 7 |
| | 小学校中学年 | 9 |
| | 小学校高学年 | 13 |
| | 中学生以上 | 5 |
| | 会社員・団体職員 (森林・林業関係) | 0 |
| | 会社員・団体職員 (森林・林業関係以外) | 12 |
| | その他(自営業、学生、 無職、不明等) | 12 |
| | 公務員 | 10 |



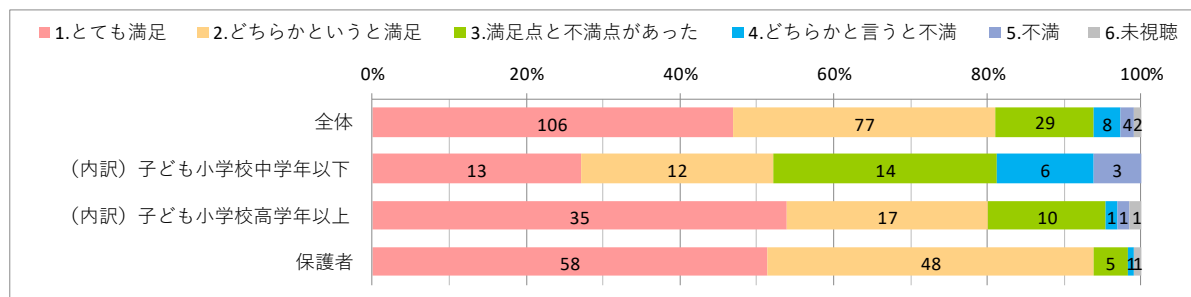
○回収率 22.6% (113/500 家庭)

○集計結果

①【動画】放射線ってどんなもの？

<年代別>

| 回答者属性▼ | 高 | | ← → | | 低 | | 回答数 |
|------------------|---------|-------------|---------------|--------------|------|-------|-----|
| | 1.とても満足 | 2.どちらかという満足 | 3.満足点と不満点があった | 4.どちらかと言うと不満 | 5.不満 | 6.未視聴 | |
| 全体 | 106 | 77 | 29 | 8 | 4 | 2 | 226 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 13 | 12 | 14 | 6 | 3 | 0 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 35 | 17 | 10 | 1 | 1 | 1 | 65 |
| 保護者 | 58 | 48 | 5 | 1 | 0 | 1 | 113 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 授業形式で丁寧に説明がされていて分かりやすかった。放射線の動きの様子を見て、自分の想像していた動きと異なり、意外で驚いた。私たちが生活する中で放射線は自然に存在していることを知ったため、恐れすぎないことと正しい知識を身につけることが大切だと感じた
- ・ 霧箱を使って、放射線が見られたのが面白かった
- ・ サーバイメーターの反応が明らかでとても分かりやすかった

【保護者】

- ・ 子ども向けの内容だったが、子どもと一緒に「なるほどね～」という内容がたくさんあり、見ていて面白かった
- ・ 北先生の講義の内容も分かりやすく、知識を得ることができた
- ・ 放射線について、子どもとじっくり話し合う機会になった。分かりやすく、実験もたくさんあり、勉強になった
- ・ 子どもが興味深そうに見ていた。漠然としか分かっていなかった放射線について、分かりやすく学べてよかった

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 実験が画面の中で行われていて、自分ではできないのがつまらない
- ・ 年齢的にまだ少し難しかった（小学校低学年以下の回答）

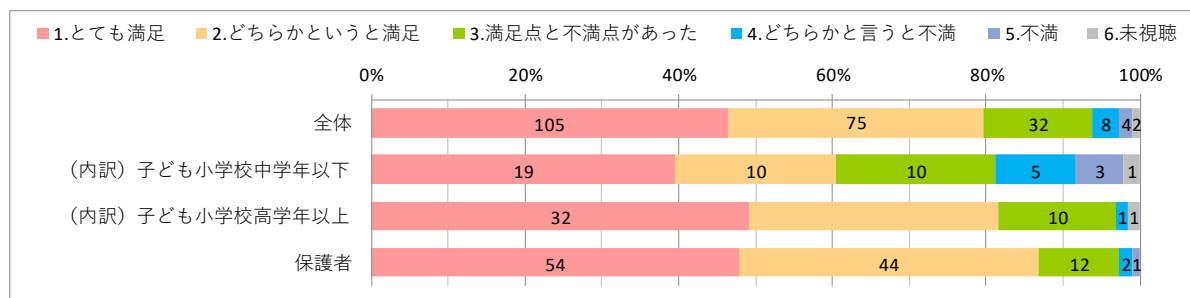
【保護者】

- ・ 先生がこちらに向かってではなく、画面の中の子どもたちに話していた。実験は面白そうだったが見ているだけでは面白くなかった

②福島森、今どうなってるの？

<年代別>

| 回答者属性▼ | 高 | | ← → | | 低 | | 回答数 |
|------------------|---------|-------------|---------------|--------------|------|-------|-----|
| | 1.とても満足 | 2.どちらかという満足 | 3.満足点と不満点があった | 4.どちらかと言うと不満 | 5.不満 | 6.未視聴 | |
| 全体 | 105 | 75 | 32 | 8 | 4 | 2 | 226 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 19 | 10 | 10 | 5 | 3 | 1 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 32 | 21 | 10 | 1 | 0 | 1 | 65 |
| 保護者 | 54 | 44 | 12 | 2 | 1 | 0 | 113 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 原子力発電所の事故で放射性物質が飛散してとても危ないと思っていたけど、少しずつ放射性物質の量が減っていることが分かったので勉強になった
- ・ 放射性物質は特徴・性質があることを学び興味深いと感じた。
- ・ 福島県の木が安全だと分かってよかった。もう少し質問の時間があるととってもよかった

【保護者】

- ・ 福島森の現状が分かるよい機会だった
- ・ 震災当時のデータは知っていたが、最近はどう変化していたのか知らなかったので勉強になった
- ・ 図や実物を使っての説明がとても分かりやすかった
- ・ クイズや測定、すしらーめんりくさんとのやり取りがよいメリハリとなり、集中が切れることなく視聴できた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

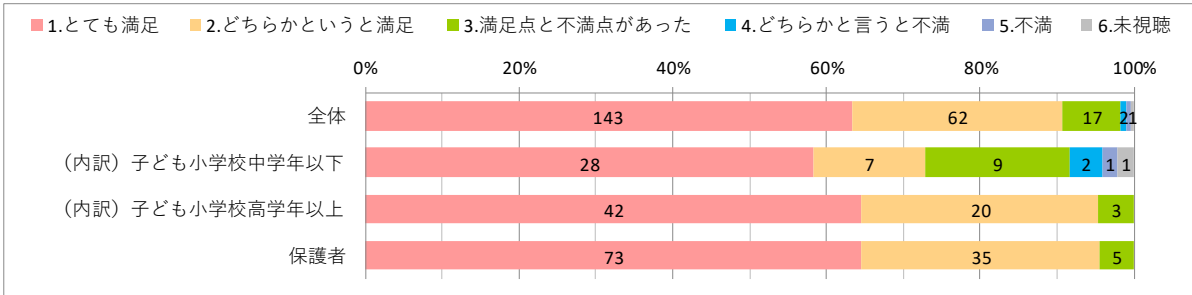
- ・ 途中で飽きてしまった（小学校低学年以下の回答）
- ・ 話が長かった（小学校低学年以下の回答）
- ・ 少し話が難しかった（小学校低学年以下の回答）

【保護者】

- ・ 質問コーナーを充実させてほしい
- ・ もう少し突っ込んだ話が聞きたかった。放射能の話だけでは物足りなく、もっと実情が知りたい
- ・ 震災、原発事故の説明が必要だ。そのことを全く知らない子どもが全国には多い

③森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～

| 回答者属性▼ | 高 | | ← → | | 低 | | 回答数 |
|------------------|---------|-------------|---------------|--------------|------|-------|-----|
| | 1.とても満足 | 2.どちらかという満足 | 3.満足点と不満点があった | 4.どちらかと言うと不満 | 5.不満 | 6.未視聴 | |
| 全体 | 143 | 62 | 17 | 2 | 1 | 1 | 226 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 28 | 7 | 9 | 2 | 1 | 1 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 42 | 20 | 3 | 0 | 0 | 0 | 65 |
| 保護者 | 73 | 35 | 5 | 0 | 0 | 0 | 113 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 動画を見てシイタケとナメコを栽培している様子を知った。キノコの栽培について詳しく知らなかったため、それらを育てる容器がたくさん並んでいる様子を見て驚いた。湿度や温度などのこだわりを感じた。なめここの収穫では、ハサミで一つ一つ切っていくと思っていたが、ぐっと引っ張るということで意外だった
- ・ 生産現場の写真・動画が面白かった
- ・ 実際に収穫を体験できてよかった
- ・ ナメコを栽培していて、毎日見ているのが大きくなるのが楽しかった
- ・ たくさんキノコを食べたいと思った

【保護者】

- ・ 分かりやすく栽培や収穫について学べた
- ・ 子ども向けに面白く語りかけてくれていたので、入りやすかった。食べ物のことなので興味を持って聞くことができていたと思う。実際に栽培しているところの映像もよかった
- ・ 収穫体験が楽しかった。子どもの「生き物を食べてるって感じがする」「自分で収穫すると美味しい」という言葉が印象的だった
- ・ 生産者のキノコ愛を感じ応援したくなった。ナメコのアヒージョやてんぶらなど、目からうろこのレシピも収穫後が楽しみになった

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

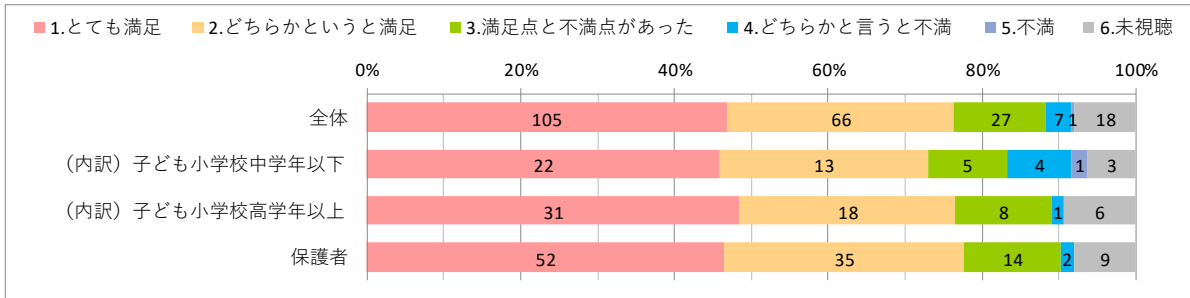
- ・ まだナメコが収穫できる状態になっていなかった

【保護者】

- ・ 収穫体験がよかったし、生産者の話で熱い思いは伝わってきたが長かった。子ども（小学校中学年）は飽きて見るのをやめてしまった

④森に親しもう！

| 回答者属性▼ | 高 ← | | | → 低 | | | 回答数 |
|------------------|---------|-------------|---------------|--------------|------|-------|-----|
| | 1.とても満足 | 2.どちらかという満足 | 3.満足点と不満点があった | 4.どちらかと言うと不満 | 5.不満 | 6.未視聴 | |
| 全体 | 105 | 66 | 27 | 7 | 1 | 18 | 224 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 22 | 13 | 5 | 4 | 1 | 3 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 31 | 18 | 8 | 1 | 0 | 6 | 64 |
| 保護者 | 52 | 35 | 14 | 2 | 0 | 9 | 112 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 森の中でキャンプしたり、遊んだりしたいと思った
- ・ 森が好きになれるような内容だった
- ・ フォレストパークあだたらに行きたくなくなった
- ・ 木や森を守るために伐採が必要ということだった。伐採というものが森の維持には重要な役割を果たしていることを知った

【保護者】

- ・ 楽しそうな写真がたくさんあり、今度ここ行ってみたいな！と家族で話題になった
- ・ 自然豊かな姿を見て、行きたいねと子どもたちと盛り上がった
- ・ 優しい語り口がよかったし映像も素敵だった

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ あまり記憶に残っていない

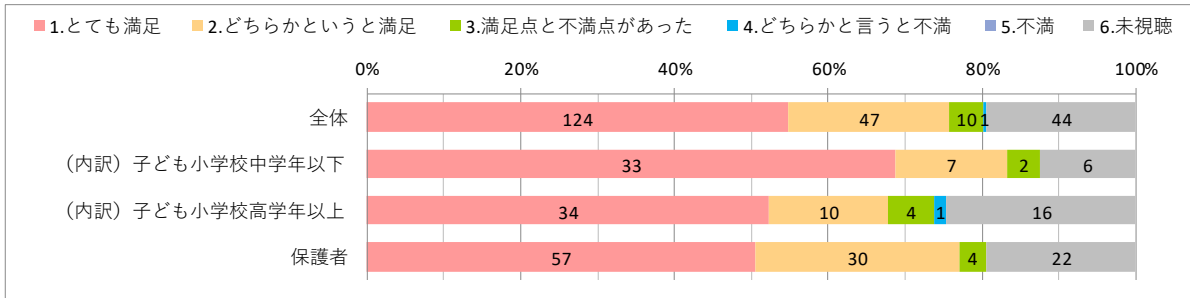
【保護者】

- ・ もっと詳しく知りたかった
- ・ 子ども（小学校中学年）はナメコの収穫で興奮していて、あまり見ていなかった

⑤【動画】家で作ろう！木工クラフト

<年代別>

| 回答者属性▼ | 高 | | ← → | | 低 | | 回答数 |
|------------------|---------|-------------|---------------|--------------|------|-------|-----|
| | 1.とても満足 | 2.どちらかという満足 | 3.満足点と不満点があった | 4.どちらかと言うと不満 | 5.不満 | 6.未視聴 | |
| 全体 | 124 | 47 | 10 | 1 | 0 | 44 | 226 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 33 | 7 | 2 | 0 | 0 | 6 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 34 | 10 | 4 | 1 | 0 | 16 | 65 |
| 保護者 | 57 | 30 | 4 | 0 | 0 | 22 | 113 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・簡単に作れて楽しかったし、クリスマスの飾りにできてよかった
- ・お母さんと一緒に作れて楽しかった
- ・動画を見ながらオーナメントを作っていく過程が楽しかった

【保護者】

- ・加工のないそのままの木に親しんで、お気に入りのクラフトができた。雪だるまはクリスマスを過ぎても冬の間飾れそう
- ・手元の動画もあったので分かりやすかった。随時動画を止めながら、子どものペースで作れたので良かった
- ・子どもの大好きな工作を通して木材に触れることができた。今回の企画で興味を持つ入り口になったと思う
- ・丁寧な説明で、子どもたちだけでクラフトができた。樹種の説明を聞いたばかりだったので、子どもたちも「大きさが違う」「模様が面白い」などとても楽しそうに作っていた
- ・普段はなかなか木に触れることがないし、子どもとおしゃべりしながらよい時間が過ごせた
- ・間伐された木を使って作るという取組が素晴らしいと思った。今の季節にぴったりの工作で、楽しみながら森について考えるよい機会になると思った

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

(該当なし)

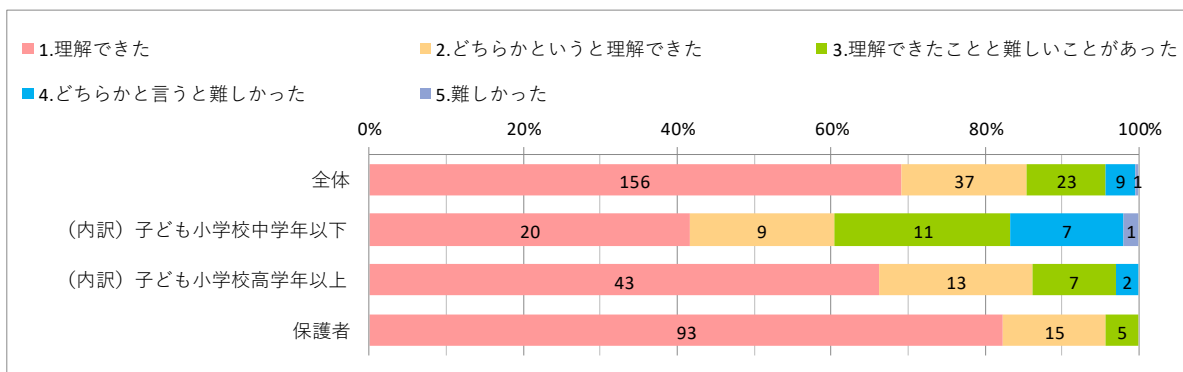
【保護者】

- ・動画を見なくても作れた

⑥福島の中の放射線量はだんだんと下がっていることや、キノコは今でもお店に出せない場所があるなどのお話は理解できましたか

<年代別>

| 回答者属性▼ | 高 | | ← → | | 低 | |
|------------------|---------|----------------|---------------------|-----------------|---------|-----|
| | 1.理解できた | 2.どちらかという理解できた | 3.理解できたことと難しいことがあった | 4.どちらかと言うと難しかった | 5.難しかった | 回答数 |
| | きた | きた | があった | があった | | |
| 全体 | 156 | 37 | 23 | 9 | 1 | 225 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 20 | 9 | 11 | 7 | 1 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 43 | 13 | 7 | 2 | 0 | 65 |
| 保護者 | 93 | 15 | 5 | 0 | 0 | 113 |



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 基準値を超えている野生のキノコがたくさんあると知った
- ・ 震災の影響を受け、市場に出せない地域があるということで、その範囲が広く非常に驚いた
- ・ 未だに放射線の影響が残っているのは大変だと思った
- ・ 図やグラフを用いて分かりやすい説明だった

【保護者】

- ・ データを示していただいたところが大変よかった
- ・ 森林の土に放射性物質がたまるから野生キノコ等が危険であること、しかし線量は下がってきていることが理解できた
- ・ 先生方の説明が小学生にも理解しやすい内容だった
- ・ まだ市場に出せないことを知り驚いた。生産者は大変だと思うが頑張ってほしい
- ・ 同じ地区でも場所により数値が違う場所がある事も知った。雨や風、地形等様々な原因もあるけれど、確実に数値は下がり安全になってきているし、市場に出た物は安心安全なものだから売られているので消費することで応援したいと思う

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ あまりよく分からなかった／難しかった（小学校中学年以下）

【保護者】

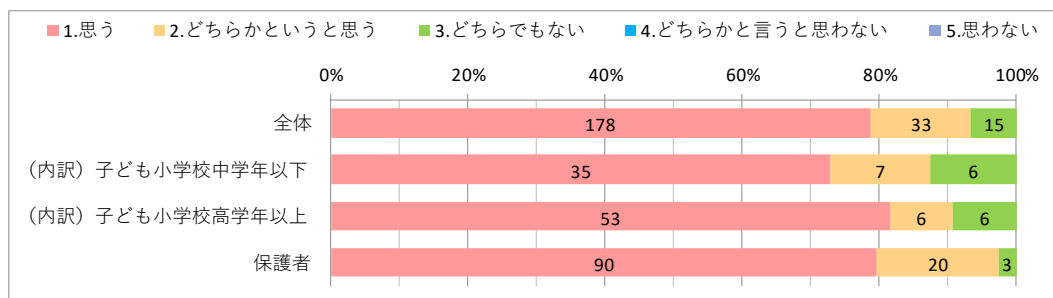
- ・ どこの土か等が説明不足に感じる。できれば現場での録画で見せてはどうか

(3) 福島の食べ物（キノコなど）を食べたい、森に遊びに行ってみたいなど、福島県を応援する気持ちになりましたか

<年代別>

高 ← → 低
 1.思う 2.どちらかという思う 3.どちらでもない 4.どちらかと言うと思わない 5.思わない

| 回答者属性▼ | い | | | | | 回答数 |
|------------------|-----|----|----|---|---|-----|
| 全体 | 178 | 33 | 15 | 0 | 0 | 226 |
| (内訳) 子ども小学校中学年以下 | 35 | 7 | 6 | 0 | 0 | 48 |
| (内訳) 子ども小学校高学年以上 | 53 | 6 | 6 | 0 | 0 | 65 |
| 保護者 | 90 | 20 | 3 | 0 | 0 | 113 |



【子ども】

- ・今回参加して、より地元福島の食べ物と森に興味を持った。私のすぐ近くには森がないため、遊びに行ってみたく思った。また、様々な食べ物を食べてみたい
- ・震災後の福島には行ったことがある。今も影響が残っていることを知ったが、あまり気にしてない人もいたので、負けずに頑張りたい
- ・夏休みなどに福島に連れて行ってほしいと思った
- ・福島について、もっと知りたいと思った

【保護者】

- ・放射線を過剰に恐れる必要はないと思っていたが、自信を持った
- ・今回のシンポジウムを通じて、親子で一緒に学べたこと、そしてオンラインだからこそおしゃべりをしながらリラックスして参加ができて、子どもたちは福島にとっても興味を示していた。特に小学4年生の長女は、学校で都道府県を習っていたこともあり福島県のことを知れて「福島に行きたい!」と話している。子どもたちはキノコが苦手と食べないが、生産者の動画を見たり、実際に育てたことで「早く食べたい!」と意欲的になっていて驚いた
- ・申し訳ないが、震災当時は福島産の農産物を避けていた。その後ろめたさが心の中にあった。あれから10年、今回このような機会をいただいて勉強ができとてもありがたいと思った。これからは選択肢に福島産の農産物があったら積極的に選ぼうと思う
- ・自分の身の安全・食の安全を守ることも重要だが、福島の人たちの風評被害は断じてあってはならない。私たちは福島の人たちが、「どんな思い」で物を作っているのか、生産しているのか、企画をしているのかに、もっと思いを巡らせて、対応していかなければならないと感じた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

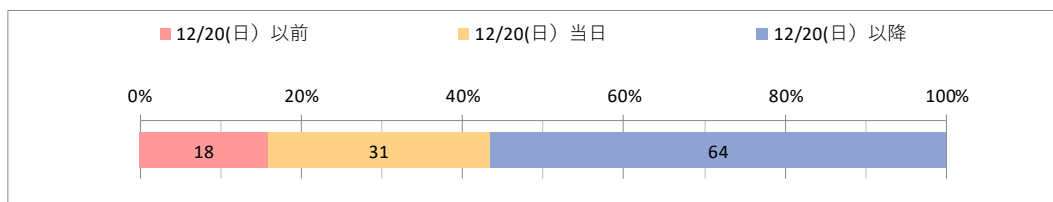
(該当なし)

【保護者】

(該当なし)

ナメコ栽培キットの収穫タイミングはいつでしたか？

| 12/20(日) 以前 | 12/20(日) 当日 | 12/20(日) 以降 | 回答数 |
|-------------|-------------|-------------|-----|
| 18 | 31 | 64 | 113 |



(4) その他、感想などを自由に書いてください

【子ども】

- ・ また参加したいと思った／面白かったのでまたやってほしい
- ・ 先生達の説明が分かりやすかったので、福島を応援しようという気持ちが強くなった。キノコもどんな環境で育てているのか、よく分かった
- ・ とても勉強になった。工作も楽しかった。私はキノコが苦手だが、ナメコを栽培して食べるのが楽しみになった
- ・ 昨年の夏にフォレストパークあだたらでキャンプをした。コロナの状況が落ち着いたらまた行きたい。ナメコを育てるのも収穫も、とても貴重な経験ができた
- ・ ナメコを育てるのは初めてで、キノコを家で育てるなんて心配だったが、毎日観察するのが楽しかった
- ・ 実際にナメコを育てるのはとてもワクワクし、成長する過程を見るのは面白かった。今までに放射線についてのお話を聞く機会があったが、少し難しく感じ、小さい頃であったためかよく理解できないところがあった。しかし、今回お話を聞いて、内容が分かりやすく丁寧に理解することができた。森についてもっと知りたいと興味を持った
- ・ 私は自然の中で遊ぶのが好きだ。震災の前の年に生まれたからあまり海や山に遊びに行けず、自分の住むところは自然はあるが昔に比べたら遊べる場所が減ったと聞いた。福島は森が豊かで自然がいっぱいの県だと知った。川や山でキャンプしたり遊びに行きたいと思う
- ・ 地震や津波、原子力発電所の事故で福島は大変なのだった
- ・ 自分も実験がしたい。ナメコはもっと育ててみたい。工作が楽しかった
- ・ 林業をやってみたい
- ・ 自宅にいながら動画等を見て参加できるのがよかった
- ・ 参加者がコメントを書き込めるチャットが面白い
- ・ すしらーめんりくさんも好きだから、とても楽しかった。また木工をしたり福島県のことを勉強したい
- ・ すしらーめんりくさんの動画を見たことがあったので、身近に感じた
- ・ すしらーめんりくさんが出ていて面白かった。募金活動などをしていたことを知った

【保護者】

- ・ YouTubeのライブ配信を見たことがなかったのでいろいろな事が新鮮で、楽しく学べた。動画は大事な内容をテロップにするなど、見やすく理解しやすかった。改めて考える良い機会をいただいた。すしらーめんりくさんが出ていて、子どもたちも入りやすかったようだ。ナメコを自分で育てるなど実際の体験もできて家族で楽しめた
- ・ 震災直後から6年半ほど福島市に住んでおり、なかなか除染が進められないと聞いていた森林やその影響を強く受けるきのこ栽培の分野でも着実に復興が進んでいると感じ、胸が熱くなった。参加した子どもは、震災3年後の福島市の生まれだ。もしいつか周りから心無い言葉をかけられた時でも、正しい知識を持って対応できるように、そしてほんの数年でも福島で生まれ育ったことを誇りに思えるように、折を見て色々教えたいと思っている。放射線の授業動画は、そのためにもとても良い教材だと思った。またこのような機会があることを期待している。ぜひ福島に遊びに行き、フォレストパークで色々な体験を楽しみたい
- ・ 子どもたちは概ね理解できたのではないかと思う。最後まで真剣に視聴していた
- ・ 家族で参加出来て楽しかった。また企画してほしい
- ・ ナメコの観察、収穫がとても楽しかった。家にいて動画を見られるのもよかった
- ・ ナメコ栽培・収穫など親子で楽しんで行えた。またそれをきっかけに福島や放射線のことを学ぶ機会をいただけた
- ・ 家族でキャンプに行こうと思う。自分で育てたナメコはかわいくて美味しくて楽しかった
- ・ 採ってすぐ食べられるきのこが、これほど美味しいと初めて知った。温度・湿度管理は大変だとは理解しているが、栽培キットが今より簡単に流通するとうれしい
- ・ ナメコを実際に家で育ててみて、生産者の気持ちが分かった。愛着が湧いて、収穫するときはすこし心が痛んだが、感謝して食べようと思った
- ・ チャット欄への書き込みが多くあり楽しかった。参加者が気軽に意見を伝えたり、質問できたのは、オンライン形式ならではのメリットではないかと思う。とても身近に感じながら参加できた
- ・ まったく馴染みのない分野だったので、たくさんの知識と驚きがあった。とてもよい経験になった
- ・ 知らなかったことが学べてよかった
- ・ 今後もこのような機会があればぜひ受けさせたい
- ・ 子どもが小学校低学年だったが、事前のなめこ栽培キットの効果が大きく、想像以上に興味を持ってライブ配信を視聴していた。放射線の授業動画はとても素晴らしく大変勉強になった。さすがに子どもには難しく、親から原子力発電所事故の概要と放射線の話をした。意外と興味を持って聞いてくれて、ライブ配信の最中は森の放射性物質の動態の話を食いついて聞いていた
- ・ 子どもが対象年齢より下で、学習部分は難しくついていけないところがあったものの、木工やナメコ栽培など全体的に楽しんでた
- ・ シンポジウム終了後もナメコ栽培を継続して楽しんでいる／数回目のナメコ収穫にチャレンジしている
- ・ 子どもが途中で飽きてしまった（対象年齢以下）

4)参加者アンケート集計考察

アンケートは、今後、シンポジウム等の普及啓発手法の検討、運営等に役立てることを目的に実施した。主に各コマ（以降、講義や体験の単位として使用）の満足度等に対する評価について、集計結果の考察を行った。

回答者全体の傾向に加え、子どもと保護者に分け、さらに子どもは小学校中学年以下と対象年齢の小学校高学年以上の年代別に分けて傾向の違いがみえるものについて結果を考察した。

参考までに、回答者の主な属性（地域）は、【子ども】小学校高学年以上（福島県9%、関東圏12%、その他8%）、小学校中学年以下（福島県5%、関東圏9%、その他7%）、【保護者】福島県13%、関東圏22%、その他15%となった。

①シンポジウムの内容に対する満足度

満足度の評価は、1（満足）～5（不満）の5段階評価に6（未視聴）を加えて実施し、主

として満足度1（とても満足）、2（どちらかという満足）の割合について考察を行った。参考までに、昨年度のアンケートは満足度を3段階評価としたため、比較は行わない（対象年齢が小学校中学年以上を推奨としたものの、子どもの年齢層が低かったため、回答しやすいように3段階とした）。

ア 回答者全体の傾向

1と2の割合をみると、「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」が91%と満足度が非常に高かった。その他のコマは、「【動画】放射線ってどんなもの？」81%、「福島の森、今どうなってるの？」80%、「森に親しもう！」と「【動画】家で作ろう！木工クラフト」が各76%（未視聴を除くとそれぞれ83%、94%）で、シンポジウムに対する満足度は全体的に高かった。

「【動画】放射線ってどんなもの？」：

ライブ配信までに本動画を視聴するよう参加者に告知し、学習を促した。アンケート回答者のうち、未視聴だったのは1家庭（2名）のみで、ほぼ全ての回答者が視聴していた。「霧箱を使って、放射線が見られたのが面白かった（子）」「サーベイメーターの反応が明らかでとても分かりやすかった（子）」との意見が寄せられ、子どもからは様々な実験をすることで興味を持って視聴でき、理解が促されたと高く評価された。保護者からは「放射線について、子どもとじっくり話し合う機会になった」「子どもと一緒に『なるほどね～』という内容がたくさんあり、見ていて面白かった。講義の内容も分かりやすく、知識を得ることができた」との意見が寄せられ、親子で会話をしながら一緒に学ぶことができ、また保護者自身も知識を得られたと高い評価を得た。一方、「実験が画面の中で行われていて、自分はできないのがつまらない（子）」「先生がこちらに向かってではなく、画面の中の子どもたちに話していた（保護者）」等、小学校の出前講座風景を使用したことによる低い評価が若干数あり、動画講義の見せ方や内容の改善の参考としたい。

「福島の森、今どうなってるの？」：

「原子力発電所の事故で放射性物質が飛散してとても危ないと思っていたけど、少しずつ放射性物質の量が減っていることが分かったので勉強になった（子）」「福島県の木が安全だと分かってよかった（子）」「図や実物を使っての説明がとても分かりやすかった（保護者）」「クイズや測定、すしらめん《りく》さんとのやり取りがよいメリハリとなり、集中が切れることなく視聴できた（保護者）」との意見があり、参加者がチャットからクイズに参加したり、講師がフリップ上のアイコンを動かして放射性物質の動きを表現する、またサーベイメーターでの測定実験など、飽きずに視聴できる要素を随所に盛り込んだことで高く評価され、また理解が進んだことがうかがえる結果となった。低い評価として「質問コーナーの時間がもっとほしい（子）（保護者）」との意見があったほか、「震災、原発事故の説明が必要だ。そのことを全く知らない子どもが全国には多い（保護者）」との意見が寄せられた。

「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」：

全コマの中で突出して高い結果となり、「実際に収穫を体験できてよかった（子）」「ナメコを栽培していて、毎日見ているのが大きくなるのが楽しかった（子）」との意見が寄せられた。今年度初めて、参加者が約2週間ナメコを育て収穫するという時間をかけた体験型のコマを実施したことが高く評価された。また「子どもの『生き物を食べてると感じる』『自分で収穫すると美味しい』という言葉が印象的だった（保護者）」という意見に代表されるよう

に、子ども、保護者のどちらからも「キノコは苦手だったが食べたくなった（と子どもが言っている）」というコメントが多数あるなど食育としても効果的な内容だったことが高い評価を得た。一方、栽培していたナメコがライブ配信当日に収穫時期になっておらず低い評価となった家庭もあった（参考値 ナメコ収穫時期：ライブ配信日以前 16%、配信日当日 27%、配信日以降 57%）。

「森に親しもう！」:

「森の中でキャンプしたり、遊んだりしたいと思った（子）」「自然豊かな姿を見て、行きたいねと子どもたちと盛り上がった（保護者）」と高く評価され、実際に福島へ遊びに行きたいと、次の行動に繋がる積極的な意見が多数寄せられた。低い評価としては「子どもはナメコの収穫で興奮していて、あまり見ていなかった（保護者）」などがあった。

「【動画】家で作ろう！木工クラフト」:

「簡単に作れて楽しかったし、クリスマスの飾りにできてよかった（子）」「子どもの大好きな工作を通して木材に触れることができた。今回の企画で興味を持つ入り口になったと思う（保護者）」「間伐された木を使って作るという取組が素晴らしいと思った。今の季節にぴったりの工作で、楽しみながら森について考える良い機会になると思った（保護者）」との意見があり、体験型であること、親子で一緒に楽しめる内容だったことが高く評価された。なお、本動画はライブ配信前後のどちらでも参加者の任意のタイミングで視聴・クラフト制作が行える形式としたため、回答者のうち 44 名（19%）は未視聴だった。

イ 年代別の傾向

年代別に満足度の高低をみると、「【動画】放射線ってどんなもの？」が、1 と 2 の回答が小学校高学年以上 80%、小学校中学年以下 52%、「福島の森、今どうなってるの？」が、小学校高学年以上 82%、小学校中学年以下 60%と差があった。想定した対象年齢層には講義内容の理解が促進されたといえる結果となり、低年齢層には若干難解な内容だったことが分かるが、それでも低年齢層の半数以上には理解が促された結果となった。

「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」は、小学校高学年以上 95%、小学校中学年以下 73%といずれも高い満足度だった。小学校中学年以下の評価が若干下がったのは、時間が長く飽きてしまったり、収穫に夢中で配信に集中できていなかったことが要因と考えられる。

「森に親しもう！」は、年齢層による大きな差はみられず、小学校高学年以上 77%、小学校中学年以下 73%だった。

「【動画】家で作ろう！木工クラフト」は、小学校高学年以上 68%、小学校中学年以下 83%と、このコマのみ小学校中学年以下の方が満足度は高く、制作物等の内容が低年齢層向けだったことがうかがえる。

保護者は、1 と 2 の回答が、「【動画】放射線ってどんなもの？」94%、「福島の森、今どうなってるの？」87%、「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」96%、「森に親しもう！」78%、「【動画】家で作ろう！木工クラフト」77%といずれも満足度は高かった。

②福島の森の中の放射線量はだんだんと下がっていることや、キノコは今でもお店に出せない場所があること等は理解できたか

ア 回答者全体の傾向

1（理解できた）と 2（どちらかという理解できた）の回答で 86%と理解度は高く、「震

災の影響を受け、市場に出せない地域があるということで、その範囲が広く非常に驚いた（子）」「確実に数値は下がり安全になってきているし、市場に出た物は安心安全なものだから売られているので消費する事で応援したいと思う（保護者）」という意見に代表されるように、「福島森、今どうなってるの？」の絵図やクイズを多用した講義によって子どもが興味を持ち理解が促され、保護者は本シンポジウムによる知識や情報の提供によって消費や応援する等、次の行動に繋がるきっかけとなったことがうかがえる。一方、対象年齢未満の年齢層からは「難しかった」との回答があった。

イ 年代別の傾向

年代別に理解度をみると、小学校高学年以上が1と2の回答で86%と高く、想定した対象年齢層には理解が促された。対して小学校中学年以下は60%と下がったものの、半数以上は理解ができたと回答した。①のイ「【動画】放射線ってどんなもの?」「福島森、今どうなってるの?」の結果でも記したように、対象年齢に満たない子どもには若干難解だったものの、対象年齢の小学校高学年以上は理解度が高く、適切なレベルの内容だったといえる。保護者は1と2の回答で96%と非常に高い理解度だった。

③福島の食べ物(キノコなど)を食べたい、森に遊びに行ってみたいなど、福島県を応援する気持ちになったか。

ア 回答者全体の傾向

1（思う）と2（どちらかというと思う）の回答で93%と、9割以上が応援したいと回答し、「今回参加して、より地元福島の食べ物と森に興味を持った（子）」「震災当時は福島産の農産物を避けていたが、今回勉強の機会をいただき、これからは選択肢に福島産の農産物があったら積極的に選ぼうと思う（保護者）」等のコメントが寄せられた。

イ 年代別の傾向

1と2の回答が、小学校高学年以上91%、小学校中学年以下88%と非常に高く、保護者は97%とほぼ全員が応援したいと回答した。いずれの年齢層も、応援に消極的な理由はコメント等からは見えなかった。

④その他の感想・意見

子どもからは、「とても勉強になった。工作も楽しかった。私はキノコが苦手だが、ナメコを栽培して食べるのが楽しみになった」「自分も実験がしたい。ナメコはもっと育ててみたい。工作が楽しかった」など、体験型の内容が良かったというコメントが多くあり、「また参加したい」という要望も多くみられた。また、「福島を応援しようという気持ちが強くなった」「放射線についてのお話を聞いて、内容が分かりやすく丁寧に理解することができた。森についてもっと知りたいと興味を持った」「福島は森が豊かで自然がいっぱいの県だと知った。川や山でキャンプしたり遊びに行きたいなと思う」という、福島の森や木、林産物への理解が深まったことでそれらに興味を持ったというコメントや、福島に行ってみたいというコメントが寄せられた。また、「すしらーめん《りく》さんが出ていて面白かった。募金活動などをしていてことを知った（子）」等のコメントもいくつか見られ、子どもに人気のYouTuberが参加したことで配信が盛り上がったことがうかがえた。

保護者からは、子ども同様に体験型の内容を高く評価する意見が多数あったほか、「子どもたちは概ね理解できたのではないかと思う。最後まで真剣に視聴していた」「家にいて動画を見られるのもよかった」「今後もこのような機会があればぜひ受けさせたい」等のコメントが

あり、動画講義やライブ配信形式によって親子が一緒に会話等をしながら学べたことや、子どもが興味を持つ内容がよかったと高い評価を得た。一方、低年齢層の子どもの保護者からは「子どもが途中で飽きてしまった」というコメントもあった。

5) 企画・運営改善

準備段階から当日までの企画・運営等について、実施状況、参加者アンケート、シンポジウム実施後のミーティング等から、成果、問題点、改善方法案を取りまとめた。

① 準備作業(企画に対するものも含む)

| | | |
|---|---|-----------------------------|
| 開催日の設定・検討 | 成 果 | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 初めての動画制作、ライブ配信の試みだったため、準備期間を考慮し、余裕を持って開催日を設定したかったが、木工体験でクリスマスオーナメントを作ることは必須であり、クリスマス前に必ず実施する必要があるがあった。 | 季節・タイミングを限定しないプログラム内容を検討する。 |
| 開催会場の選定・検討 | 成 果 | |
| | 後援の港区にご協力いただき、地域材をふんだんに使った施設から配信ができ、非常に説得力のある映像となった。 | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| 当初の想定よりもカメラの台数が増える等配信の規模が大きくなったので、結果的にはもう少し広い会場が適当であった。 | 今年度使用した会場以外で港区内に地域材を使ったこれ以上の広さがある会場はなかったが、会場の広さとその他の諸々の条件の中で優先順位を決め、会場を選定し、早めに確保することが非常に重要である（会場実施の場合も同様）。 早い段階で可能な限り細かく本番を想定した打ち合わせをし、配信の規模感を想定しておく必要がある。 | |
| 登壇候補者の選定・調整 | 成 果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けイベント等の経験が豊富にあり、画面を通して対象年齢層へ分かりやすく「伝える力」のある登壇者（森林総合研究所講師やキノコ農家の出演者）が選定されており、プログラムの魅力の増幅へと繋がった。 ・参加者代表としての YouTuber は、配信を盛り上げるノウハウを持った人物が選定され、参加者に難しい・堅苦しい印象を持たれかねない本シンポジウムの内容に興味を持たせると共に、特に飽きてしまいがちな子どもに配信を見続けさせることのできる人選だった。 | |

| 問題点 | 改善方法案 |
|---|--|
| <p>YouTuber 本人の Twitter で告知を行いファン層の参加を見込んでいたが、想定よりも参加者数が少なかった（全体の3%）。YouTuber の Twitter をフォローしている主な層が中高生だったため、小学校高学年以上の親子が対象の本シンポジウムでは対象層から外れていたと考えられる。</p> | <p>ファン層の集客を見込みたい出演者を選定する場合は、本シンポジウムの対象層とファン層、及びシンポジウムの内容とファン層のニーズが合致するか検討する。</p> |
| <p>本番で YouTuber がどの程度リアクションをしてよいのか（自分のカラーを出してよいのか）分からないとの意見があった。</p> | <p>著名人の場合、事前に入念な打ち合わせの時間が取れない、細かな台本の確認ができない場合も想定されるため、事前に特別出演者の選出意図や求めるもの等を伝えると共に流れの中の重要なポイントにしぼった、分かりやすく簡潔な説明文書を作り、確実に伝える工夫をする。</p> |
| <p>本番で YouTuber のリアクションに回りの出演者がうまく対応できない時があった。</p> | <p>国の事業（オンラインシンポジウム）であることを踏まえた上で、たとえばどの程度まで大声で笑って良いか等の認識を出演者とスタッフ全員で共有しておくことが重要である。また、できる限りリハーサルの時間を確保することで本番に余裕を持って対応できるようにする。</p> |

| 成 果 | | |
|------------------|---|---|
| 広 報 対 応 | <p>・告知ポスター（チラシ）は、対象年齢である小学生高学年とその保護者の目に留まりやすいよう明るくキャッチーなデザインを採用した。また、プレゼント品が目を引くようにレイアウトしたり、写真を大きく多用する等で、より分かりやすく興味を引きやすい紙面になったと考える。</p> <p>・広報手法のうち参加者増に繋がったと考えられる方法としては以下が挙げられる。</p> <p>＊開催市区内の全小学校の5・6年生、その他事業関係者の協力で行った小学校へのチラシ配布：参加者数が最も多い広報手法だった（全体の45%）</p> <p>＊知人等への直接の広報（口コミ）：次点で参加者数が多い広報手法だった（全体の41%）。</p> <p>①子育てネットワーク内へ会員から情報提供：本シンポジウムの対象層かつイベント内容に興味・関心を持つ（ニーズのある）保護者層にピンポイントで告知ができた。</p> <p style="padding-left: 40px;">※子育てネットワークとは…県や市町村単位で発足され、子育て中の者を主な対象として、子育て支援者や子育て当事者等が集まる市民集団。交流会・子ども向けイベントの開催や、会員専用サイトで会員同士の情報交換などを行う等の活動をしている。</p> <p>②その他、関係者が直接知人等へ告知した。参加者が信頼関係のある知人からの情報によって安心感を持つことで、不特定多数に向けた広報よりも参加率が上がると考えられる。</p> <p>・参加者が、配信当日まで気持ちを高められるよう、またナメコ栽培キットの育て方のノウハウの提供・質疑応答などをTwitterで情報発信し、Twitter利用者からはナメコ栽培に関する質問や、ライブ配信後はナメコ料理の報告等、活発なやりとりができた。配信当日までのフォロワー数は48名だったが、フォローをしなくても閲覧は可能なため、一定数に情報提供ができたと言えるのではないかと。</p> | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 保護者世代（40代）が想定よりもインターネットツールに馴染みが薄く、ライブ配信形式になると敷居が高く感じ参加に繋がりにくい面がある。 | 広告紙面で視聴方法を分かりやすくする等、難しい印象を与えない工夫をする。 |
| | 参加者500家庭の確保に苦慮した。 | 信頼のおける者からの紹介が最も参加を促せることから、小学校でのチラシ配布の際も教員の方等から一言言っていただく等学校側に説明・依頼をすることも有効と考える。また、前年度、「いこーよ」等子ども向けイベントサイトや、小学校で配布される子ども環 |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| | | 境情報誌「エコチル」での告知にも一定の効果があつたことから、子どもの体験学習や環境教育等に感度の高い保護者が集まる場への情報提供も幅広く検討する。 |
| | 事務局 Twitter のフォロワー数が 55 名（2021 年 2 月時点）と参加者数に対して伸びなかった。 | 保護者世代（40 代）が想定よりもインターネットツールに馴染みが薄いのに加え、Twitter アカウントの開設がライブ配信日の 1 ヶ月前だったため、フォローの判断基準となる投稿頻度や内容等の情報が十分ではなかったことが要因と考えられる。少なくとも数ヶ月前から細かに投稿し、継続した情報発信等が必要である。 |
| 開催方法、プログラムの企画・時間設定、配付資料・準備物 | 成 果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインとしたことで開催場所に拠らない、全国からの参加が得られた。 ・動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツ共に全ての内容に対して参加者の反応が良く、ライブ配信中のチャット及びアンケート結果からも充実したものであったことが分かり、プログラム全体のバランスが良かったと考えられる。 | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | オンライン開催は会場開催と異なり、参加者の参加状況の実績が把握しづらい面がある。ライブ配信当日の参加者数が 433 家庭、配信翌日の参加者数が 72 家庭（433 家庭とは重複しない者）と、聴講や関係者の視聴を加味しても、500 家庭中相応の参加があつたと推察されるが、参加者とその他を分けられないので正確な数字が出せないこと、どの程度の視聴時間なのかが把握できない（参加者数は、アクセス解析の、重複のない視聴者数である”ユニーク視聴者数”という数字を参照した）。 | コロナ禍により、オンラインの開催手法も選択肢が広がってきた。ZOOM 等の参加状況を把握できるツール等、オンラインの普及啓発手法について柔軟に検討する。 |
| | 今回行ったライブ配信の「参加者限定公開」では限られた人数にしか普及できず、オンラインのメリットを最大限発揮できない。 | 広く制限なく公開することによるメリット、デメリット双方を考慮し、公開範囲を検討する。 |

| 成 果 | | |
|---------------|--|--|
| 動画コンテンツの企画・制作 | <p>事前学習のメリットとして以下の点があげられる。</p> <p>①参加者が学習・体験するタイミングを選ぶことができ、休憩も自由にできることから集中力の低下等を防ぐことができた。</p> <p>②子どもの疑問に親が答えるなど、親子で会話をしながら講義内容の理解を深める様子がみられた（アンケート結果より）。</p> <p>③よく聞きたいところを再度再生したり、復習として繰り返し視聴することが可能。</p> | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 動画コンテンツの撮影・編集作業に、想定以上に時間がかかった。 | 企画段階で、制作する動画コンテンツを厳選し、余裕を持った撮影・編集スケジュールを検討する。 |
| | 参加者に事前学習のため配信した動画コンテンツについて確実に視聴されたのか正確に把握できない（ライブ配信当日まで限定公開とし、その再生数は537回であったが、前項と異なり、重複のある視聴者数なので、参加者の正確な視聴状況が把握できない）。 | 動画コンテンツは「限定公開」することで、公開対象者の大まかな視聴数は確認することが可能（現状ではこれ以外の対応はできない）。 |
| | 参加者のリアクション（意見・態度）がみえず、反応が汲み取りにくい。 | アンケート内容を充実させて（回答しやすい工夫をする）詳細な把握ができるようにする。 |

②シンポジウム当日の対応

| 成 果 | | |
|-----------|--|--|
| 会場設備・準備物等 | <p>壁や机、パーテーション等に地域材がふんだんに使われた、本シンポジウムの趣旨に沿った雰囲気の良い会場からライブ配信ができた（昨年度、改善として提案した点であった）。</p> | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 施設の規約上、会場への入室可能時間が9時からであったため、当日の最終リハーサル時間が十分確保できなかった。 | 前日に最終リハーサルができるよう会場を確保する、もしくは早朝から使用できる会場を検討する。また、配信開始時間を遅く設定する等でリハーサル時間を確保することも一案である。 |
| | 2部屋を、仕切りのパーテーションをはずし繋げて使用したが、そのうち1部屋は午前中に他団体が使用しており、午後から机の変更等の作業が生じた。 | 使用予定の部屋を全日確保できるように可能な限り早い段階で調整する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 本番前の会場設営・準備に時間が足りず、配置等に不備が生じた。 | リハーサル時に生じた重要な変更点については、再度リハーサルをする等、より入念な準備を行う。 |
| | 出演者から、YouTube 上の配信画面と、チャットのコメントを出演中に見られるとよいという要望があった。 | モニターを増やす等、検討する（チャットのコメントを確認できるタブレットを用意したが、使い慣れない出演者が多かった）。 |
| | 出演者への指示出しの機会が想定よりも多く、出演者にも伝わりにくかった。 | リハーサル等の準備を入念に行うと共に、スタッフの役割分担を見直す。また出演者に伝わりやすい指示の出し方を検討する。 |
| 福島 の森、 今どう なっ てるの？ の運 営状 況 | 成 果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は講義内容に興味を持って聞く様子がみられた（ライブ配信中のチャットやアンケート結果より）。[全コマ共通] ・チャットを利用したクイズを用いた参加型の講義や、YouTuber が参加者代表となって実験等を行ったことで参加者が関心を持っていた。 ・講師への質問が非常に多くチャットから寄せられ、参加者が講義を熱心に聞いていたことが見て取れた。[森のめぐみ収穫体験と共通] | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 公的機関が実施するシンポジウムということで、YouTuber がどの程度自分の持ち味を出してよいか、迷いがあったとの意見があった。[全コマ共通] | 著名人の場合、事前に入念な打ち合わせの時間が取れない、細かな台本の確認ができない場合も想定されるため、事前に特別出演者の選出意図や求めるもの等を伝えると共に流れの中の重要なポイントにしばった、分かりやすく簡潔な説明文書を作り、確実に伝える工夫をする。 |

| | | |
|----------------------|--|--|
| 森のめぐみ収穫体験の運営状況 | 成 果 | |
| | ライブ配信当日だけの体験だけでなく、事前に自宅で2週間程度をかけたナメコ栽培の体験時間があったことは、学習効果が非常に高かった。 | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 暖冬の影響で栽培見本用に栽培していたキノコ類の成長が想定よりも早く、ライブ配信時には傘が開ききった状態になる等、適切な収穫状態に合わせられなかった。 | 時期をずらして複数栽培する等、対策を検討する。 |
| 森に親しもう！の運営状況 | 成 果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・映像やスライドで写真をふんだんに使い、美しい森の風景や林業の現場を見せたことで参加者の興味・関心が高まる様子がみられた（ライブ配信中のチャットやアンケート結果より）。 ・実際の木工体験は別途動画を見ながら作成することで、ライブ配信自体が時間短縮でき、参加者も別日に好きなタイミングで木工が楽しめたことは、長丁場の配信による集中力の低下対策の観点からもよかった。 | |
| | 問題点 | 改善方法案 |
| | 木工体験の作成物が、若干小学校低学年向きであるため、参加への興味が薄れる要因となっていた。 | 木工体験内容を対象年齢層（小学校高学年）に合わせたものに変更する。 |
| | 動画やパワーポイントの表示を挟むタイミングがもたつく場面があった。 | さらに詳細なタイミング、表示スライド指示等の資料を準備する。また、ライブ配信スタッフ・当日担当者との事前打合わせを密に行う。 |
| シンポジウム（ライブ配信）全体の運営管理 | 成 果 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各コマで時間が押した場合に調整を入れる等は行ったものの、配信が途切れる等のトラブルもなく、全体としてほぼ予定時間どおりに進行され配信が終了した。 ・コロナ禍で楽しみや様々な経験が不足する中で、自宅で親子が一緒に体験できることが、想定していた以上に参加者から高い評価を受けた。 ・ライブ配信のメリットとして以下の点があげられる。 <ul style="list-style-type: none"> ①参加者の所在地を選ばず、全国展開の普及が可能となった。 ②今回は参加者数の上限を定めたが、ライブ配信形式では参加者数や地域の制限がなく、多くの対象者に普及が可能。 ③各自の自宅等から参加可能なため、天候等、当日の状況に参加者率等が左右されにくい。 ④アーカイブ配信を行ったことにより、当日配信を視聴できなかった、内容を聞き逃した等があっても何度でも視聴が可能。 | |

| <ul style="list-style-type: none"> ・チャット機能を使って他の参加者の反応が見られ、参加者同士がコメントで交流するなど、集合型のシンポジウムとは違ったリアクション手法の良さ（気軽さ）や一体感があった。 ・チャット機能を使って質疑応答を行うことで、講師と参加者双方向のやり取りが可能となった。また、質問が文章化されていることで、出演者が答えやすいメリットがあった。 | |
|--|--|
| 問題点 | 改善方法案 |
| ライブ配信時の参加者数で判断するしかなく、詳細な参加者数の実績が確認できない。 | YouTube のメンバーシップ登録の機能を使う等、方法を検討する。 |
| 参加者のリアクション（表情・態度）がみえず、反応が汲み取りにくいいため、出演者が参加者の反応に合わせて即時にアドリブで対応を変える等ができない。 | 今回同様の配信形式の場合、リハーサルや作り込みをさらに行う必要がある。また、ZOOM等の参加者の顔も見られる「双方向」の性質が強い手法も検討する。 |
| ライブ配信中にプレゼントの実物も見せ協力要請したが、アンケートの回収率が低かった（R 2（ライブ配信）：23%、R 1（集合型）：福島会場 93%、東京会場 70%）。 | 回答しやすいアンケートの項目・方法を検討することや、アンケート回答者へのプレゼント品を豪華にする等も一案として対策を検討する。 |
| BGMが大きく、声が聞き取りにくい場面があった。 | 参加者のチャットから判断し、その場で対応したものの、現場でどの程度まで音量を落とすかの指示がしきれなかった。リハーサルで本番と同じ環境を作り、十分に確認を行う。 |
| チャットによる質問時間を設けたが、出演者と参加者との間に、配信のタイムラグが 20～30 秒生じ、最初に参加者のリアクションを待ってしまい、進行が途切れる場面があった。 | 質問を投げかけてから、書き込みを受けるまで、トークでつなぎをできるように話題を準備しておく。 |
| 当日のリハーサル時間が短く、また事前を含めて丁寧な段取り等の確認、リハーサルの時間が持てなかった。 | 早い段階で本番を想定した打ち合わせをしながら、入念なリハーサルをすることが重要である。事前に、可能な限り登壇者と事務局による個別の打ち合わせやリハーサルを行うこと、配信スタッフとは配信日以前のリハーサルは 1 回しか持てないため、その時に役割分担と動きを細かく確認できるようにすること、事前のリハーサル後に出た課題は本番までに修正し、再度確認作業を行ってお |

| | | |
|--|--|--|
| | | き、本番直前のリハーサルも余裕を持って実施できるようにする。 |
| | 役割分担は決めていたものの、チャットのコメント管理や、全体の指示出しの系統が統一されておらず、指示が重複したり混乱する場面があった。 | 会場・進行（映像、音声等含む）全て、メイン担当者からの指示に統一する。また、YouTube 上の配信画面及び全カメラの映像をメイン担当者が常に確認できる状態にしておく。 |

6)小括

シンポジウムの実施状況、シンポジウム実施後のミーティング、参加者アンケートの結果・考察、企画・運営改善等から小括した。

①プログラムの企画内容について

ア シンポジウム全体

- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、例年の会場での実施ではなく、オンライン・ライブ配信及び事前・事後の動画コンテンツ配信にてシンポジウムを実施した。このことにより、開催場所に拠らない、全国からの参加が得られた。
- ・本年度は、次世代を担う若年層（子ども及びその保護者）が、福島の森・木・林産物の魅力や現状を知ること、さらに、福島県の森林・林業再生に貢献する何らかの行動に繋がることを目指した。昨年度、会場での親子向けシンポジウムの実施成果から、全体を通して楽しめる要素があり、体験を伴う「学び」が、子どもだけではなく保護者にも有効であることが実証されていた。今回、会場での対面型ではない実施となり、オンライン手法の限界と、オンラインならではの良さがみえてきた。
- ・参加者の様子、アンケートの結果から、「福島の森林等の現状の理解促進」については、子ども・保護者共に理解度も高く、またプログラム全体を通して満足度も非常に高かった。体験（木工、キノコ栽培・収穫）と学びを通して、森の恵みを楽しみながら現状を理解するという、狙い通りの成果を得た。これは、昨年度、子ども向けに実施した成果を改善し、さらにオンライン・ライブ配信形式で、子どもに理解ができるような配付・投影資料の作成、飽きさせないプログラムを作成したことが大きい。結果、「福島を応援しようという気持ちが強くなった」「放射線についてのお話を聞いて、内容が分かりやすく丁寧に理解することができた。森についてもっと知りたいと興味を持った」「福島は森が豊かで自然がいっぱいの県だと知った。川や山でキャンプしたり遊びに行きたいなと思う」等、行動に繋がるコメントが子どもと保護者共に多くみられたことから、シンポジウムの開催が、「森林・林業の再生に貢献する行動」に繋がるきっかけになったと考えられる。
- ・課題として、オンラインの開催方法では会場開催と異なり、参加者の参加状況の実績が把握しづらいという面がある。ライブ配信当日の参加者数が 433 家庭、配信翌日の参加者数が 72 家庭と、聴講や関係者の視聴を加味しても、概ね 500 家庭の参加があったと推察されるが、参加者とその他を分けられないので正確な数字が出せないこと、参加者個人ごとにどの程度の視聴時間なのかが把握できない（参加者数は、アクセス解析のユニーク視聴者数という数字を参照した）。また、アンケートの回収率も会場型と比較して大幅に低かった。

イ アンケート結果から

- ・アンケートの各コマの満足度は、1（満足）～5（不満）の5段階評価に6（未視聴）を加えて実施し、主として満足度1（とても満足）、2（どちらかという満足）の割合について考察を行った。
- ・参加者全体としては、1と2の割合をみると、「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」が91%と満足度が非常に高かった。その他のコマは、「【動画】放射線ってどんなもの？」81%、「福島森、今どうなってるの？」80%、「森に親しもう！」と「【動画】家で作ろう！木工クラフト」が各76%（未視聴を除くとそれぞれ83%、94%）で、シンポジウムに対する満足度は全体的に高かった。
- ・アンケートの集計・考察は、回答者全体の傾向に加え、子どもと保護者に分け、さらに子どもは小学校中学年以下と対象年齢の小学校高学年以上の年代別に分けて傾向の違いがみえるものについて結果を考察した。
- ・各コマの満足度は、子どもについては、「【動画】放射線ってどんなもの？」が、1と2の回答が小学校高学年以上80%、小学校中学年以下52%、「福島森、今どうなってるの？」が、小学校高学年以上82%、小学校中学年以下60%と差があった。想定した対象年齢層には講義内容の理解が促進されたといえる結果となり、低年齢層には若干難解な内容だったことが分かるが、それでも低年齢層の半数以上には理解が促された結果となった。
- ・「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」は、小学校高学年以上95%、小学校中学年以下73%といずれも高い満足度だった。小学校中学年以下の評価が若干下がったのは、時間が長く飽きてしまったり、収穫に夢中で配信に集中できていなかったことが要因と考えられる。
- ・「森に親しもう！」は、年齢層による大きな差はみられず、小学校高学年以上77%、小学校中学年以下73%だった。
- ・「【動画】家で作ろう！木工クラフト」は、小学校高学年以上68%、小学校中学年以下83%とこのコマだけ小学校中学年以下の方が満足度は高く、制作物等の内容が低年齢層向けだったことが分かる。
- ・保護者については、1と2の回答が、「【動画】放射線ってどんなもの？」94%、「福島森、今どうなってるの？」87%、「森のめぐみ収穫体験～しいたけ&なめこの不思議～」96%、「森に親しもう！」78%、「【動画】家で作ろう！木工クラフト」77%といずれも満足度は高かった。
- ・森林中の放射線量やキノコ出荷制限についての年代別の理解度は、1（理解できた）と2（どちらかという理解できた）を合わせて、小学校高学年以上が86%と高く、想定した対象年齢層には理解が促された。対して小学校中学年以下は60%と下がったものの、半数以上は理解ができたと回答した。①のイ「【動画】放射線ってどんなもの？」「福島森、今どうなってるの？」の結果でも記したように、対象年齢に満たない子どもには若干難解だったものの、対象年齢の小学校高学年以上は理解度が高く、適切なレベルの内容だったといえる。保護者の理解度は96%と非常に高かった。
- ・「福島を応援したい気持ちになったか」の回答は、1（思う）と2（どちらかというと思う）を合わせて小学校高学年以上91%、小学校中学年以下88%と非常に高く、保護者は97%とほぼ全員が応援したいと回答した。いずれの年齢層も、応援に消極的な回答者の理由は

コメント等からは見えなかった。「今回参加して、より地元福島の食べ物と森に興味を持った（子）」「震災当時は福島産の農産物を避けていたが、今回勉強の機会をいただき、これからは選択肢に福島産の農産物があったら積極的に選ぼうと思う（保護者）」等のコメントが多数あり、本シンポジウムが森林・林業の再生に貢献する行動に繋がるきっかけとなったことがうかがえた。

- ・「すしらーめん《りく》」さんが出ていて面白かった。募金活動などをしていたことを知った（子）」等のコメントもいくつか見られ、子どもに人気の YouTuber が参加したことで配信が盛り上がった。

②広報対応及び情報共有について

- ・広報手法のうち参加者増に繋がったと考えられる方法としては以下が挙げられる。
 - * 開催市区内の全小学校の 5・6 年生、その他事業関係者の協力で個別に行った小学校へのチラシ配布：参加者数が最も多い広報手法だった（全体の 45%）
 - * 知人等への直接の広報（口コミ）：次点で参加者数が多い広報手法だった（全体の 41%）。
 - ①子育てネットワーク内へ会員から情報提供：本シンポジウムの対象層かつイベント内容に興味・関心を持つ（ニーズのある）保護者層にピンポイントで告知がなされた。
 - ②その他、関係者が直接知人等へ告知した。参加者が信頼のおける知人からの情報によって安心感を持つことで、不特定多数に向けた広報よりも参加率が上がると考えられる。
- ・課題として、参加者 500 家庭の確保に苦慮したため、一般市民の森林・林業に対する関心、あるいは震災復興支援の意識が高くないことが前提としながらも、範囲を広げ、例えば、子どもの体験学習や環境教育等に感度の高い保護者が集まる場への情報提供も幅広く検討する。また、信頼のおける者からの紹介が最も参加を促せることから、小学校でのチラシ配布の際も教員の方等から一言言っていただく等学校側に説明・依頼をすることも有効と考える。
- ・実施後の情報共有として、農林水産省公式 YouTube 「maffchannel」内の再生リスト『福島のもり応援隊動画』にライブ配信のアーカイブ動画を掲載したほか、キノコの生産現場潜入や生産者インタビュー、YouTuber の林業体験や木材市場の見学等、福島県の林業・林産物をアピールする動画等を制作し公開した。

③シンポジウム当日の運営・発表状況について

- ・動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツ共に参加者の反応が良く、プログラム全体のバランスが良かったと考えられる。
- ・動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツ共に、子ども向けイベント等の経験が豊富にあり、画面を通して対象年齢層へ分かりやすく「伝える力」のある登壇者が選定されていた。また参加者代表としての YouTuber の起用は、配信を盛り上げるノウハウを持った人物が選定され、難しい・堅苦しい印象を持たれかねない本シンポジウムの内容に興味を持たせ、特に飽きてしまいがちな子どもに配信を見続けさせることのできる人選だったことが、参加者の満足度に繋がったと考えられる。
- ・講師への質問が非常に多くチャットから寄せられたことで、講義を熱心に聞いていたことが見て取れた。
- ・今年度の大きな課題として、リハーサル不足、配信当日の人員配置や指示出しの手法・

経験不足があった。参加者の反応（表情・態度）が汲み取りにくいことから演者が参加者の反応に合わせて対応を変える等もできないため、事前に登壇者と事務局で丁寧に段取り等を打ち合わせし、また配信スタッフも含めた本番形式に近い形でリハーサルを入念に行う必要がある。

- ・さらに今後の課題として、配信会場の選定、スタッフの配置・役割分担、資料の見せ方、参加者が体験する内容の検討等の改善が必要である。

④その他

- ・平成 26 年度から 30 年度に行ったシンポジウムでは、今回と同じく関係者だけでなく一般市民も含めた参加を想定して企画していたが、参加者の大半は林業関係者であり、一般市民への普及啓発が課題であった。あわせて、「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略（復興庁）」の中で、伝えるべき対象として「児童生徒及び教師等教育関係者」が一番上位に挙げられているように、次世代を担う子どもたちとその保護者に、福島の実情を伝え、理解を促進し、更に一歩進み、福島県の森林・林業再生に貢献する何らかの行動を起こす応援団を増やしていくことは、引き続き重要な課題になる。
- ・昨年度の実施結果から「体験」という要素が普及手法として有効であることが分かったため、コロナ禍の中、また、オンライン形式で「体験」をどう担保するか検討した。今年度の対応は、①自宅で事前に2週間ナメコを栽培し、収穫体験を行う、②事前に木工キットを送付して自宅で木工体験を行うこととしたが、次年度以降も新型コロナウイルスの影響が想定される中、「体験」を提供する場所・タイミング・内容を新しい切り口で柔軟に検討していく必要がある。
- ・広報手法については、広く一般のメディアに取り上げてもらえるよう、魅力的なプログラムを企画することはもちろんのこと、今年度の成果を分かりやすくPRしながら取材を依頼していくことが必要となる。